



まほろば秦野通信

平成27年7月23日

秦野市役所市長室広報課

タイトル	地下水の保全に努めています 秦野盆地の地下水収支報告
When (いつ)	平成26年度までの傾向
Where (どこで)	秦野盆地内
What (なにを)	秦野市地下水保全管理計画で、市民共有の貴重な財産である地下水を安定に持続活用していくために掲げた目標「健全で持続可能な水循環の創造」の達成に向け、毎年、地下水のかん養量と地下水揚水・湧出量を調査し、水収支のバランスの検証を図っています。
How (どのように) Why (なぜ)	地下水盆の地下水位が低下すると、名水百選「秦野盆地湧水群」の湧水や井戸が枯れる恐れがあるため、地下水盆へのかん養から湧出にいたる扇頂・扇央・扇端の区域を対象に地下水かん養量と地下水揚水・湧出量を調査し、水収支バランスを検証しています。 ※ 詳細は別紙
今後の取り組み	市制施行60周年・名水百選選定30周年 秦野名水記念事業 2 秦野名水ポスター・標語募集（9月まで）・表彰（11月） 3 秦野名水シンポジウム～丹沢の自然が育む秦野の名水と人～ 平成27年8月9日（日） 秦野保健福祉センター 第1部 秦野名水と身近な生活（事例発表） 第2部 基調講演・パネルディスカッション 4 秦野名水ロゴの商標登録（11月） 5 秦野名水さんぽ～秋～（11月）
問い合わせ	環境産業部環境保全課地下水・環境指導担当：小島 電話0463（82）9618

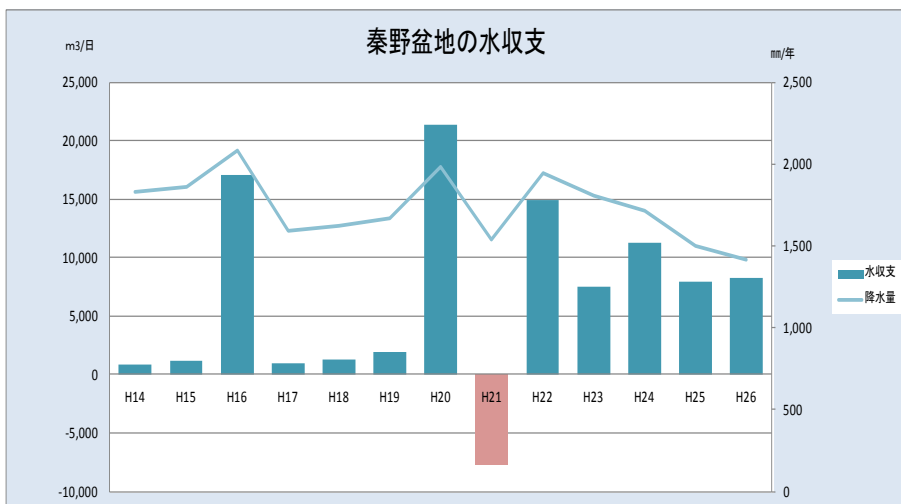
秦野盆地の地下水収支報告

丹沢山地や秦野盆地に降った雨は盆地山側で地下に浸透し、地下水として貯えられています。盆地の地下は天然の水がめ構造となっており、その量は約2.8億立方メートルと推定されています。この地下水は、市民の水道水などとして利用され、人々に恵みを与えています。また、盆地南部では地下水が各所に湧き出しており、「秦野盆地湧水群」として昭和60年に環境省の名水百選に選ばれています。

地域水循環において、地下水にかん養される水の源は雨にあるため、降水量が多ければ、地表かん養・人工かん養によるかん養量も増えます。また、河川かん養についても、山に降った雨が染み出た沢が集まって川となり、地下水にかん養されます。そのため、年間降水量が多ければ収入が増え黒字収支となり、逆に渇水年では収入が減り赤字収支となる傾向があります。

本市は、神奈川県の水源環境保全・再生市町村交付金などを財源とし、積極的に森林整備を推進しているほか、市民共有の財産であり、命の源となる地下水を保全するため、休耕田などを利用した水田かん養や歩道の透水性舗装の施工、雨水浸透ますの設置補助など、さまざまな地下水かん養事業を進めています。

その結果、水収支の傾向から見ると、年間降水量が減少傾向にあるにもかかわらず、黒字収支傾向にあることから、極端な少雨年（渇水年）を除き、健全な水循環が創造されつつあるものと考えられます。



地下水盆の保全のため、地下水の水収支の把握と合わせて、扇央に位置する観測井を監視基準点とし、地下水位（水頭標高）を監視しています。

平成 7 年に南地区の自噴井戸の自噴が停止した時に、この観測井の水頭標高が 117m を下回ったため、監視基準点の地下水警戒水位を 117m としています。

監視基準点の年平均水頭標高は、降水量及び水収支に連動していて、この 15 年間では、警戒水位を下回ることなく、119.9m から 123.1m の間で上下しており、地下水保全管理計画に基づく地下水保全施策の効果が出ているものと思われます。

